

第38回日本超心理学会大会：特集 幽霊・ポルターガイスト

近年における国内のポルターガイスト事例調査

Recent Case Study for Poltergeist in Japan

小久保秀之 国際総合研究機構

Hideyuki Kokubo *International Research Institute (IRI)*

1. ポルターガイスト現象の定義

まず始めに、ポルターガイストに対する筆者の基本的な考え方を明らかにしておく。

**ポルターガイスト (Poltergeist)**

ポルターガイストは、ドイツ語で騒ぐ幽霊の意味。突発的な物体移動・出火・出水などが、一定期間、断続的に発生する現象をいう。大抵の場合、中心となる人物を特定可能で、その人物がひきおこす無意識的な PK 現象だと考えられるため、RSPK (Recurrent Spontaneous PK、反復性偶発性 PK) とよばれる。<sup>1)</sup>

2. ポルターガイストで発生する主な現象と期間

ポルターガイストで発生・観察される現象には種々のものがあるが、古くから言われているものとして、たとえば来所不明の石つぶて、物体の消失・移動、出水、出火、音があり、近年ではこれに電気製品の異常動作が加わる。物体移動は、瞬間的であったり、あるいは気が付かないうちに一瞬で移動したりするケースが多いが、家の床を石がゆっくり移動していく過程が観察された例もある<sup>2)</sup>。また、物体移動が頻発していたのが、しだいに発火現象も起こるようになったり<sup>3)</sup>、現象の発生場所が移ったり<sup>8)</sup>、数 km 先にまで拡大した場合<sup>3)</sup>もある。

ポルターガイストの継続期間はまちまちだが、数ヶ月から 1 年以上に渡るものが報告されている。継続期間の短い事例は、これまでは研究者が乗り出す前に現象が終息してしまい、詳しい調査が困難であった。しかし、ワシリエフ超心理学財団では、1995 年、ポルターガイストの専門調査チームを結成し、24 時間体制で市民からの通報で現場に駆けつける即応体制を築き、継続期間の短い事例の調査に成功している<sup>4)</sup>。2002 年時点で、赤外線ビデオカメラによる発火現象の記録撮影に成功するなど、7 件の調査に成果を上げている<sup>5)</sup>。

3. 国内の調査事例

筆者が直接調べた事例は極わずかである。磁力計・赤外線カメラによる物理計測と体験内容の全戸聞き取りを行った集合住宅の調査(事例 1)<sup>6-8)</sup>、および、物理乱数発生器を使った個人住宅の調査(事例 2)<sup>9)</sup>である。後者はすでに本学会で報告済みであるので、前者について概略を述べる(詳細は文献 8 を参照されたい。なお、住民が住んでいる関係から調査結果の一部は未公表である)。

**3-1 概要** 2000 年、日本の岐阜県で、アパートの住民が幽霊目撃、物体移動、怪音などを

訴える事件が発生した。この事件は一般にポルターガイスト事件として知られている。報じられた異常現象のうち、電気製品や方位磁石の異常は、特異な電磁現象が原因である可能性が考えられたため、磁場の計測を試みた。この調査は、社会心理学者、TVスタッフと共同で実施した。

**3-2 背景** 集合住宅は、1999年に富加町に建設された町営T住宅。2000年当時、24世帯が入居。入居直後から奇妙な音がすることに住民は気がついたが、後に、住宅全体で起こっていることを知るに至った。住民自治会は町役場に対処を求めたが良い回答は得られなかった。やがて現象に堪えられなくなった世帯が一時的に退去する事態となり、住民の間で、この現象は心霊現象ではないかとする意見が強くなった。霊能者を呼んでお払いをしてもらったところ、現象の頻発していた場所(焦点)は発生頻度が低下したが、住宅内の他の場所で頻発するようになった。この出来事を報じた中日新聞の記事がきっかけとなり、数多くの雑誌・TVが取材報道に乗り出した(2000年10月)。筆者らは2000年11月15日から17日の3日間に住民自治会の全面的協力の下、現地調査を行った。さらに調査終了後、住民自治会の要請に応じて全住民参加の浄霊儀式を行った。この儀式以降、本件は次第に沈静化した。

**3-3 物理計測** 磁力計は、ホール素子型磁力計(分解能10nT, DC-10kHz, Model 9200, F.W.Bell製)と直交3軸フラックスゲート型磁力計(分解能1nT, DC-20Hz, TRM-200S-OP1, TOKIN製)を用いた。各磁力計のアナログ出力を、SONY製データレコーダによってDATに記録した(サンプリング周波数2kHz)。さらにデータレコーダのアナログ出力を、ユニバーサルインターフェース(UIM100A, Bio-Pack Systems, Inc.製)、AD変換器(MP100WSW, 同社製)を介してコンピュータに記録した(サンプリング周波数200Hz)。測定は、異常な現象の発生を訴える住民の住居内で行った。

**3-4 結果** 3日間の調査期間中、11月15日に、奇妙な電気信号がコンピュータモニター上で観察された。最初の信号は、22時30分に南北方向のセンサYに対応するグラフYで観察された。直後に、測定系周囲の人の動きや機器の電源操作を再現したが、同じ信号は見出されなかった。続いて、各装置間の結線の確認作業を行っているとき、再びグラフYで信号が連続して観察された(同日23時10分)。その後、フラックスゲート磁力計のセンサ部を90度水平回転させてセンサXを南北方向に向け、信号を待ったが、3回目は観測できなかった。

**3-5 解析** データ解析に先立ち、DAT記録とコンピュータに取り込んだ記録の比較を行った。その結果、観察された信号はいずれもコンピュータにのみ記録されており、DATには異常信号は何も記録されていないことがわかった。

最初の信号を含む14分間のデータを、1分間ごとに周波数解析した。パワースペクトル上、2箇所ピークが見られた。このピークは後の解析で、DATレコーダーのモーター雑音によることが判明した<sup>7)</sup>。信号の観察された1分間のパワースペクトルでは、このモーター雑音のピークも増大していることから、検出された奇妙な信号は、何らかの理由で、一時的に電気回路の増幅率が増大した結果と考えられた。

表1 住民の主な体験内容

Item	Apartment Number	Description
奇妙な音の繰り返し	半数以上の室	怪音の一部はウォーターハンマーに似ている。一部の音は固有の発生周期を持っているようだ。東側の室、3・4階でよく聞こえる。
	西側	潜水艦のソナーに似た音など。
儀式の後で、焦点が移動	住宅の東側から中央に。	住民の多くがこの現象は心霊現象だと考えたので、自治会が霊能者にお払いを依頼した。
ベランダの花が枯れやすい	304, 403, 405	
幽霊目撃	403	女の幽霊、男の幽霊
	404	304の住民がベランダから404の外側に中に浮かんだ幽霊を目撃。 この住宅を建設中の1998年の10月あるいは11月、303の住民が配管工事のため、404で作業を行っていた。このとき404で幽霊を目撃した。
	405	男の幽霊
物体の移動や機械の異常動作	101	カーテンがひとりでに動いた。
	304	缶がどこかから部屋の中に飛び込んできた。
	305	扇風機が勝手に回ったり、シャワーが正常に動作しない。
	403	ドアノブが回ったり、下駄箱の扉が勝手に開く。
	404	茶碗が食器棚から飛び出して奇妙な形に割れた。食器棚の扉が勝手に開く。テレビのチャンネルが勝手に変わる。ガスレンジの火が勝手に点く。
	405	機械がよく壊れる。スイッチを入れていないのにヘアドライヤーが作動した。方位磁石の針が回る*。カメラのシャッターが降りない場所がある*。 * 同室を訪問した取材者も、同様の現象をしばしば報告している。

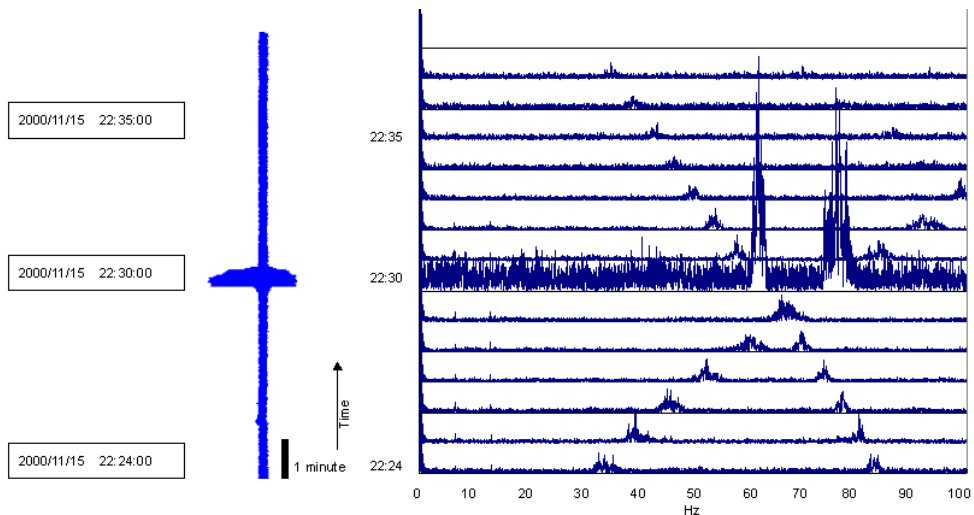


図1 信号前後の1分毎のパワースペクトル

移動する2つのピークはモーター雑音。モーター雑音と背景雑音の比から、22:30に何らかの理由で突発的に電気回路の増幅率が增大したと考えられる。

### 3-5 暫定的結論

T住宅で起こったポルターガイスト現象は、1)心理要因、2)物理要因、3)超心理要因の3要素がからんだ複合的な現象であったと考えられる。T住宅で電気回路の異常動作が起こることは確認できたが、増幅率の増大がどのような機序で起こったのかは不明である。また、コンセントにつながっていない電気製品の異常動作は、別種の電気現象の可能性がある。

## 4. 国内の事例調査における課題

ポルターガイスト現象の継続性は予測困難なため、現象の発生後、直ちに調査しなければ研究そのものがむずかしい。したがって、ロシアで行われているような即応体制を構築するのが理想であるが、国内には類似の専門体制は存在しない。

ポルターガイスト現象は主に室内で発生するため、調査研究には住民の理解と協力が必須である。日本の家屋は狭いので、小型の装置を使ったとしてもかなり測定に制約がある。

現象の早期解決を望む住民の意向も考慮する必要がある。特に RSPK と判断される場合は複雑である。カウンセリングによる問題解決が可能であっても、相当な日数が見込まれる場合や、人間関係の悪化が予想されるような場合は、我が国の精神風土に合った別の方法を模索しなければならないだろう。民間信仰や民俗文化に立脚した浄霊・憑依儀式は、悪霊に責任転嫁することで当事者の心の負債を昇華できるので、住民にそれを受け入れる心の準備があるのなら、劇的に問題を解決できる可能性がある。

## 参考文献・出典文献

- 1) 小久保秀之 (1999) 超心理学—未知能力の研究、in 磯崎三喜年、小野寺孝義、宮本正一、森和彦 編著：マインド・スペース—加速する心理学、111-124、京都：ナカニシヤ出版。
- 2) Tinoco, C.A. (1996) *Poltrgeist da Morada do Sol - RSPK No.2*, Curitiba: MAIO, 1996.
- 3) Akaki K. (1972) Fenomeno do Paraguai merece credito de professor e presta services a varios Institutetos de Perquisas Psicobiofisicas, *Journal Paulista*, July 28 -August 15, 1972. (パウリスタ新聞の連載記事「パラグアイの“希現象”追って①～⑭」およびその続報、1972年7月11日～10月18日)
- 4) Yamamoto M, Kokubo H, Yoichi H and Kawano K (2003) Report in 2002 for Russian Research, *Journal of International Society of Life Information Science*, 21(1):188-196. (山本幹男、小久保秀之、世一秀雄、河野貴美子：2002 ロシア研究状況視察報告)
- 5) Lee A.G. (1997) The results of study of "fiery" and "moving" poltergeists by use protracted non-stop IR- and TV control. "A poltergeist first aid" service in Moscow and Moscow region. *Parapsychology and Psychophysics - The Journal of L.L.Vasilyev Fund of Parapsychology*, 136-141.
- 6) Kokubo H, Haraguchi S, Furukawa M and Yamamoto M (2002) Case report on anomalous electro-magnetic signals, *Journal of International Society of Life Information Science*, 20(2), 675-678. (小久保秀之、原口鈴恵、古川雅英、山本幹男：異常電磁信号に関する測定事例報告)
- 7) Kokubo H and Yamamoto M (2003) Case study - Tomika-cho incident: Analysis of electromagnetic data for a poltergeist incident in Japan, *Proceedings of 46th Annual Convention of the Parapsychological Association*, p.366-378.
- 8) Kokubo H, Yamamoto M and Hirukawa T (2004) Case report on strange electro-magnetic signals, *Proceedings of Second Encontro Psi*, 66-75. [April 23-25th, 2004, at University of Dr. Bezerra de Menezes, Curitiba, Brazil.]
- 9) 小久保秀之、世一秀雄、山本幹男 (2002) フィールド RNG データ解析法の検討, *超心理学研究*, 7(1&2), 11-16. (Kokubo H, Yoichi H and Yamamoto M: Data analyses of a field random number generator, *Japanese Journal of Parapsychology*)